## ₩ 令和4年度 山梨県立甲府西高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

4 PTA・同窓会・地域・高等教育機関などとの連携を深め、国際バカロレアの趣

旨を生かすなど、時代のニーズに応える特色ある教育活動の構築と推進に努

学校目標:経営方針

「自分を律し、自己を高めていく」人間

力の育成を目指し、以下に取り組む。

自主・自律の精神と創造性を尊び、幅広い知性と豊かな人間性の涵養を図るとともに、常に自己と社会をよく見つめ、高い理想のもと広く社会で活躍する人材を育成する。

## 山梨県立甲府西高等学校校長 初鹿野 仁

## 1 学び方を学ばせる視点のもと、主体性を引き出す深い学びを推進し、批判的 な思考を通して、本質を粘り強く追究しようとする探究的に学びとる力の育成に 本年度の重点目標 努める。 2 自己実現を図る進路目標の設定とその達成に向けた取組を支援し、自分の 立ち位置を知り、自己の可能性を切り拓く意欲の醸成に努める。 3 部活動や学校行事、学校外活動など、様々な経験ができる機会を提供し、他 者を思いやり認め合いながら、人との関わりの中で成長できるよう努める。

ほぼ達成できた。(8割以上) B 概ね達成できた。(6割以上) 達 成 度 C 不十分である。(4割以上) D 達成できなかった。(4割以下)

≅ <b>⊤</b> /∓	4	良くできている。
	3	できている。
評価	2	あまりできていない。
	1	できていない。

	T	自己	評 価	1		
		本年度の重点目標	年度末評価(2月14日現在)			
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善領
1	主体性を引き出す深い学びを推進し、本質を粘り強く追究しようとする探究的に学びとる力の育成		教員の自己評価 教員アンケート 授業アンケート	・探究的な学びを意識した授業改善及び授業 実践を各教員が積極的に行っており、生徒も 学習の深まりを実感している。 ・各教員が積極的にICT機器を利用した授業を 実践し、個別または協働的な学びのためのス キルの向上も見られ、生徒も学びに有効な道 具としてICT機器を活用している。 ・課題論文についての各教員の経験値が高ま りを見せており、指導計画も洗練されてきてお り、生徒の成果物の質も高まりを見せている。	А	・相互授業参観を促進するなど、校内での好事例の共有をさらに進めていく必要がある。 ・スキルの向上という局面から1歩先に進み、教科の目標とのICTの利活用の関係性をさらに意識した取り組みを進める。 ・IB、特にTOKの要素を各教科の教育写践に積極的に取り入れていく必要がある。
			教員アンケート 授業アンケート			
		教育課程の開発整備に努める。	教育課程の編成 課題論文の指導計画 学校評価アンケート	ANG CONTROL OF THE CAME OF THE		
2	自分の立ち位置を知り、自己の可能性を切り拓く意欲の醸成		教員相互の授業評価 シート	・学びの基礎診断の結果を分析し、生徒の学力の現状と課題を元に必要な方策を実施するように努めている。 ・オンラインの積極的な活用及び感染症対策に配慮する中で可能な限り対面方式も取り入れ、校内課外や進路講演会等を実施した。		・効果的に学力を向上させるため、個の実態に合わせ、無理のない取り組みを助言できるようにする。 ・生徒の学力を正確に把握し、進路実に向けた適切な講演会や効果的な講例の運営に努める。
		進路講演会や進路ガイダンスを適切に配し、入試等への理解 度を高めるとともに、目標達成に向けた学力向上に資する課外 や講座等の効果的な実施に努める。 目標を意識し、その達成に向けて自主的に取り組む自己管理	学校評価アンケート	・学習手帳の利用やオンラインによる面談など、各教員は創意工夫しながら、個別の指導にあたっていた。	В	・課題の選択制を導入するなど、個に じた指導を始めており、継続的な検証 通して、効果的な取り組みを全体で共 していく。
		力を向上させるため、学習手帳の利用を進め、面談や個別指導等に活用する。		N. W.   1 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 -		
	部活動や学校行事、学校外活動などにより、他者を思いやり認め合いながら、人との関わりの中での成長を支援	豊かな人間性や人間関係形成能力の育成を図るため、生徒及び指導者のワークライフバランスの視点も含めながら、学校行事や部活動等のあり方を見直すことにより、生徒の主体的な取組を促す指導を推進する。	学校評価アンケート	・学業と部活動の両立のための環境を整備するとともに、生徒の主体性を生かした行事の運営が行われた。 ・感染症対策の徹底により校内外での活動を進めたり、オンラインによる国際交流を継続的に進めるなどした。 ・保健安全部を中心に教職員が連携をとりな		・教員の業務改善については、月一回 の20時完全退校日を設定する等、時間 の使い方に対する意識が出てきている その中で生徒と向き合うための時間確 保に向けた取り組みが引き続き必要で ある。 ・感染状況や県の指導を踏まえ異校種
		社会の一員としての自覚、社会参画への意欲などの醸成に向け、地域貢献や異校種間交流、ボランティア活動など、様々な体験ができる機会の提供に努める。		がら生徒相談等にあたり、きめ細やかな指導 ができている。	В	間交流やボランティア活動等の実現を図る。 ・すべての職員が連携して、生徒一人とりを多方面から継続的に見守り、きめ細かなサポートの更なる充実に努める
		悩みや問題を抱える生徒の早期発見に努め、教職員間及び外部機関との連携を密にして、生徒一人一人の学校生活のサポートに努める。	生活実態調査 学校評価アンケート			
	PTA・同窓会・地域・高等教育機関などとの連携を深め、国際バカロレアの趣旨を生かした特色ある教育活動の構築と推進	グローバル化や高度科学技術などに対する素養を身に付けさせるため、同窓会や大学、企業等との連携を図りつつ各種講演会など多様な学びの機会を提供する。		・三菱みらい財団からの助成金を活用し、昨年に続き批判的思考力や教養を深めるための、有意義な講演会を開催することができた。 ・1年次生に全員に対して、プレIB講座や2年次DP選択者による発表会などを通して、IB的な捉え方の共有ができた。 ・ホームページを使った情報発信が、生徒、保護者に対して適切に行われている。	A	・学術的な講演に加え、卒業生や企業 の連携により、多様な学びの機会の提供を推進する。 ・プレIB講座の充実を図るとともに、IB! 外の授業において、IB手法の浸透を図 るための研修会を開催する。 ・中学生に本校の教育活動への理解を 深めてもらうため、HPで継続して情報
			学校評価アンケート 授業アンケート			
		教育活動の充実改善に生かすため、ホームページを単なる情報発信に留めず、双方向的に利用し意見や要望聴取に努めるなどして、有効に活用していく。				発信する。   

	実施日 (令和5年3月6日)				
評価	意見·要望等				
4	・日頃から教科・科目の学習を基盤とした探究型学習プログラムとして課題論文に取り組む教育課程は、大きな成果が期待される。 ・幅広い視野で自由度を重視したリサーチ・クエスチョンを通じて生徒からユニークな発想を引き出している。探究的学びの目標の達成度は高い。 ・ICTは加速度的にアップデートされていくので苦労も多いと思うが、早い段階での積極的な活用を評価したい。多ジャンルに渡る活用から生徒の才能を引き出せることができれば素晴らしいことだと思う。 ・生徒にとっては掴みどころが難しいBに対して教員の経験値が高まっている努力に敬意を表したい。次年度への取組も期待する。 ・IBDP生にとって、Conceptua(概念的)/Debatable(議論の余地がある)/Factual(事実に基づく)な問いを探究の入り口として自ら立てる練習は大変重要。今後は情報を集め、その中から問い(Prompt)を引き出し、AIを使いながら論文として昇華させて行く力が求められると思う。Chat GPTをエッセイ課題に使用することを認める、とIBOからの見解も出された。重要項目として注視して行く必要がある。 ・日々の先生方の努力と精進が毎年の学業の結果につながっている。				
4	・個々に適した指導が結果を出していると思う。生徒が自身の立ち位置を知ることからのスタートと思うが教員のリードとサポートあっての結果であろう。 ・進路ガイダンス、キャリアガイダンスが生徒の意識向上や適性認識をより深め結果へと繋がっているのだろう。適切な実施がうかがえる。 ・学習手帳の活用など個に対する考え方の浸透を感じる。自己の可能性は、手帳の記録を振り返ったときに感じとれるものだと思う。・コロナ禍で培ったオンラインのノウハウを今後も効果的に使い、効果的な学習サポートや個別の指導に生かすための新しい方向性が見えたことは大変良いことだとう。適切にICTを利用することで、教員の業務負担が軽減されてしてとが望ましい。 ・大学受験を通して自己の確立を深める為、その先にある未来に向けて、大切な高校生活の中で先生方の工夫により生徒の未来の希望となる指針が出来ていると思う。				
3	・他者を思いやるという指導は、自分を抑える方向で自己を管理してしまいがちになる。「思いやり」が目標になってしまうことの難しさを感じる。 ・勤務時間の制約の中で文武ともに部活動の成果が出ている。限られた時間の中で様々な工夫があったと感じる。 ・登森大学等での活動制限から培ったリアルとオンラインの使い分けがひとつのテクニックとなり、今後のより効果的な指導につながればと思う。 ・スクールカウンセラーとの面談希望の増加は「時代」なのか?高校生自身の精神面の「空さ」が少しずつ滅少している傾向を懸念する。 ・IBのCASに相当するような科目を(課外活動としてであっても)設定することで、異校種間交流やボランティアの機会なども生まれるのではないか。起業アイディアコンテストなども昨今は増えており、海外のコンテストに応募する生徒がいてもいいのではないか。これは、ある種の入試には役立つことにもなると思う。一方で教員の負担が増えることは避ける必要があるので、生徒一人一人が自立した学習者として自発的に活動を展開できるのが理想だが、OB、保護者や地域の方々の力をお借りするなど、工夫のしどころではないか。・コロナ禍での学業、部活動の工夫や学校行事に対しての配慮、本当に感謝している。社会へ出た時の生きていく力が育ってくれると信じている。1人じゃない!!この気持ちを共有できることは社会に出て大きな糧になると思う。				
4	・IBの趣旨を教育活動に生かし、充実を図る先生方の姿勢を感じた。母校の発展を願う同窓生の一人として、たいへん頼もしく思う。 ・企業との接触から生徒が見出すものは多い。より積極的な機会の創出に期待する。 ・IBの全体像の理解は容易ではないので、ブレ講座などの取組みは大いに進めてほしい。 ・ホームページは上手く活用されているが、もう少しシンプルでも良いと感じる。 ・魅力的な登壇者を招いての講演会など、授業外にも生徒たちに刺激を与える仕掛けが月意されている。Pre-IBという1年生全員が参加できる場を利用し、答えがひとつではない学びの道を提示して行けることが大変有意義であり、IB的な学びのエッセンスが全校的に浸透する良き機会となっている。今後も教員の学び合い、地域の皆さんとの学び合いなどを続けて行けると良い。 ・IBに関しては、何年も前から先生方が生徒の為に尽力している。先生方の努力と生徒の				

- 留意点 (1) 重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
  - (2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。